

治療中でも働き続ける体制づくりと健康経営



おっぴい2つとってみた
46歳 両側乳がん

がんと生きる、働く、伝える

阿久津友紀

HTB東京支社編成業務部長（2022年7月～）



乳がん取材者から患者に—
『ひとりじゃない』

HTBのドキュメンタリー・WEBメディア“SODANE”が本に

SODANE ピンクリボン

おっぱい2つとってみた
がんと生きる、働く、伝える

阿久津友紀 (HTB・乳がん患者) 著 定価:1760円 北海道新聞社刊



1995年
HTB入社

2003年
若年性乳がん患者
との出会いから
ピンクリボン活動
スタート

2003～2018年
長編ドキュメンタリー
制作後も
毎年10月に行われる
ピンクリボン月間前後
患者・医師などを交えた
イベント継続

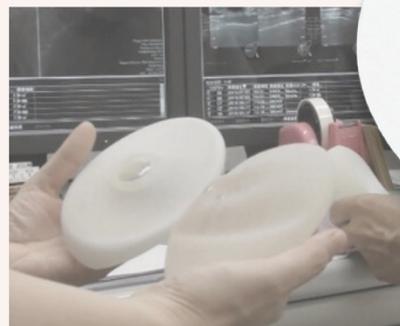
2019 乳がん
健康診断で発覚
同時両側性乳がん
母も乳がん患者
遺伝性を疑い
全摘手術
再建手術はインプラント
回収でできず



～現在
ドキュメンタリー制作・
SODANEなどWEB発信
”がん教育”講演 出版も
厚労省
がん対策推進協議会委員

阿久津友紀

HTB東京支社編成業務部長（2022年7月～）



ネットデジタル
事業部に異動
コンテンツ戦略
部長昇進

保護猫と
オット残し
単身赴任中



1995年

HTB入社

2003年

若年性乳がん患者
との出会いから
ピンクリボン活動
スタート

2003～2018年

長編ドキュメンタリー
制作後も
毎年10月に行われる
ピンクリボン月間前後
患者・医師などを交えた
イベント継続

2019 り患

健康診断で発覚
同時両側性乳がん
母も乳がん患者
遺伝性を疑い
全摘手術
再建手術はインプラント
回収でできず

～現在

ドキュメンタリー制作・
SODANEなどWEB発信
”がん教育”講演 出版も
厚労省
がん対策推進協議会委員

『がん患者は生きづらい』



悩みもそれぞれ



家族・仕事どうする

対話が解決



無意識の思い込み

仕事どうする？



仕事どうする？

案外できた





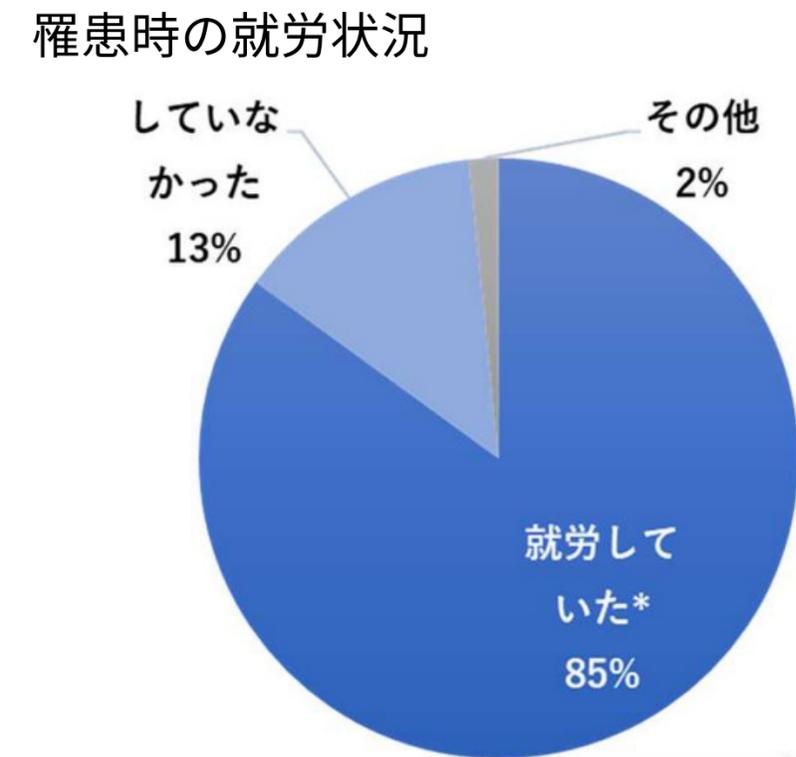
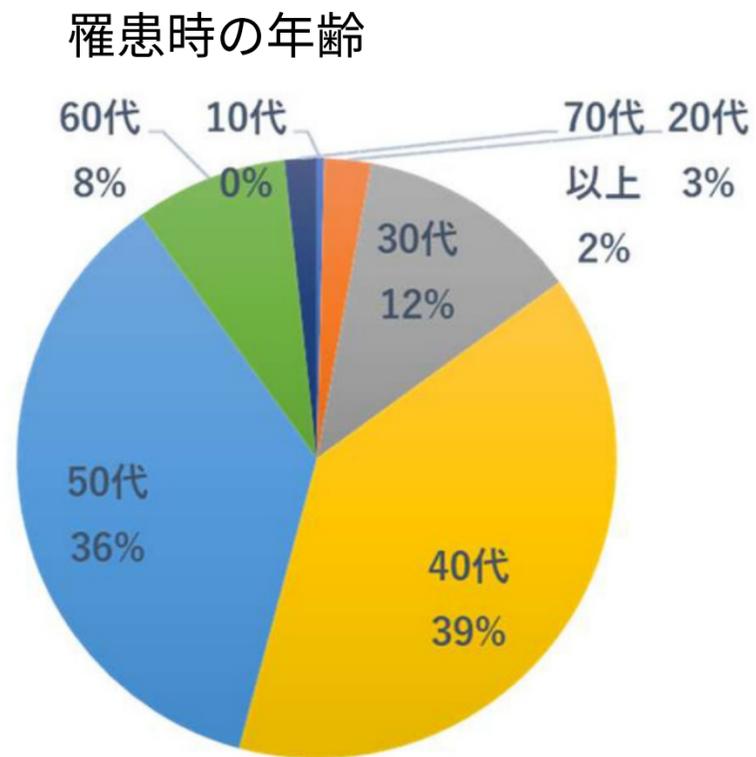
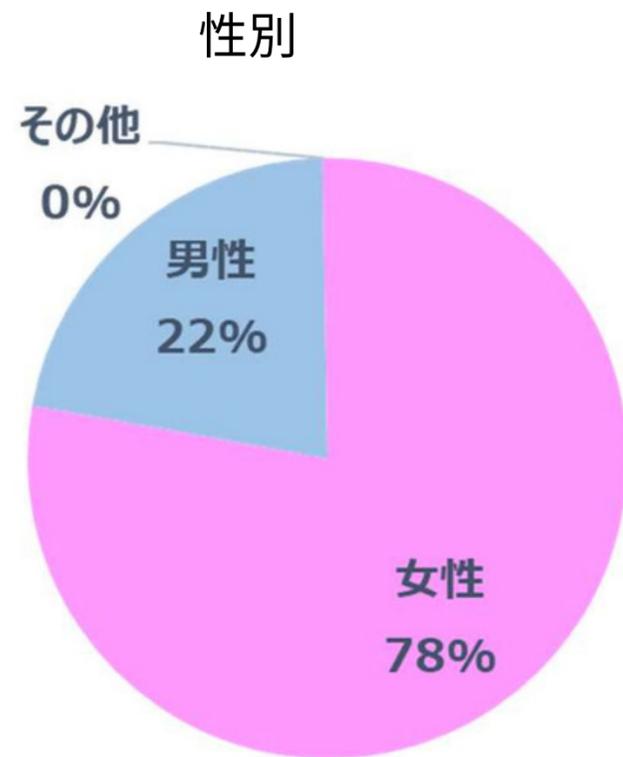
ダルかったり
暑かったり寒かったり

ベストではないがベターで乗り切る

「就労支援」に関する緊急アンケート調査

公益財団法人日本対がん協会 がんサバイバー・クラブ
 「サバイバーネット」に登録された患者、患者団体などによる
 スノーボール方式
がん罹患者、男女:753人
 調査期間:2022年10月19日~25日

- 本調査へのご回答では、女性が8割、り患時の年齢は40-50代が75%、診断時就労していた人は85%であった



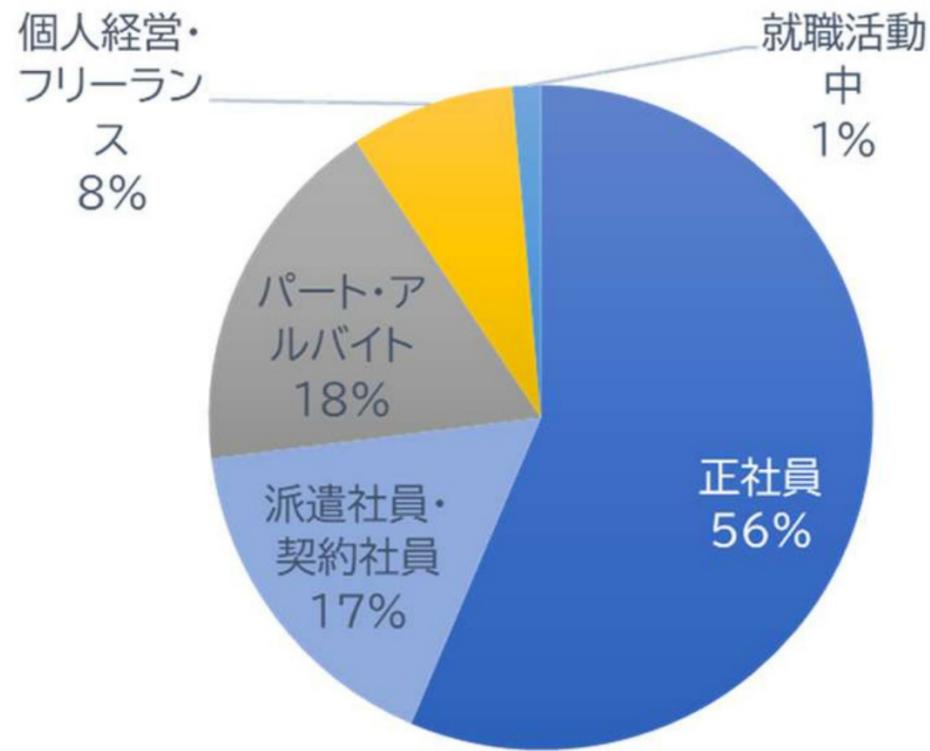
*「就労していた」には就労意向のあったもの、休職中だったものも含む

	就労していた*
女性	84%
男性	88%

就労形態の変化

- 本アンケート調査では、**正社員は約8割**がそのまま正社員として**継続就労**された。一方で**派遣・契約社員**のうち同等以上の安定した就労形態を維持しているのは**約6割であり、正社員と比べ低い**。
- 退職やより不安定な就労形態に移行した人は、派遣・契約社員だった人では25%、アルバイトでは26%。
(2021年労働力調査(※1)では、**40代50代の女性の非正規比率が56%**)

がんと診断されたときの就労形態



対象:がんと診断されたとき就労していたと回答した人639人

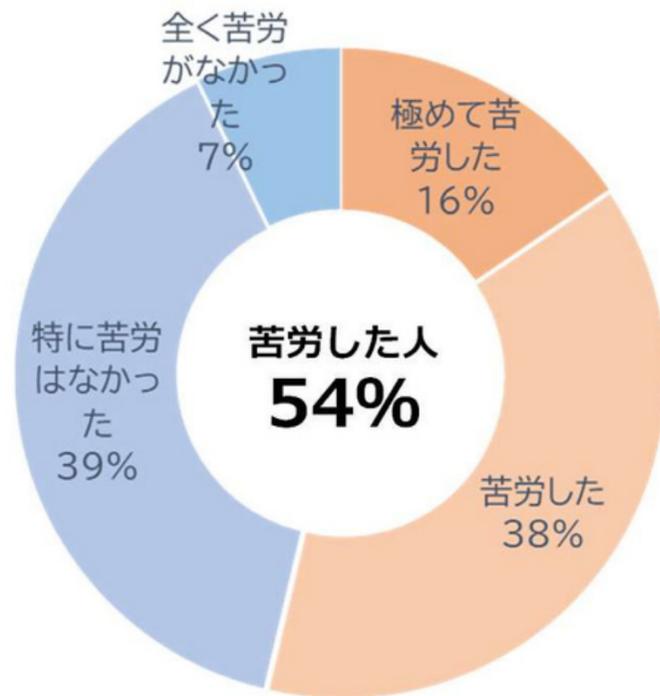
現在との就労形態の変化	現在の就労形態					
	正社員	派遣社員・契約社員	パート・アルバイト	退職	個人経営・フリーランス	その他
(参考)合計	48%	11%	16%	13%	7%	6%
正社員	78%	3%	5%	8%	2%	4%
がんと診断されたときの就労形態						
派遣社員・契約社員	11%	48%	9%	14%	2%	16%
パート・アルバイト	1%	4%	61%	26%	0%	8%
個人経営・フリーランス	10%	4%	2%	10%	63%	12%
就職活動中	11%	11%	22%	11%	0%	44%

就労には休職も含む
個人経営・フリーランスと就職活動中の数字は、N数が少ないため、参考値

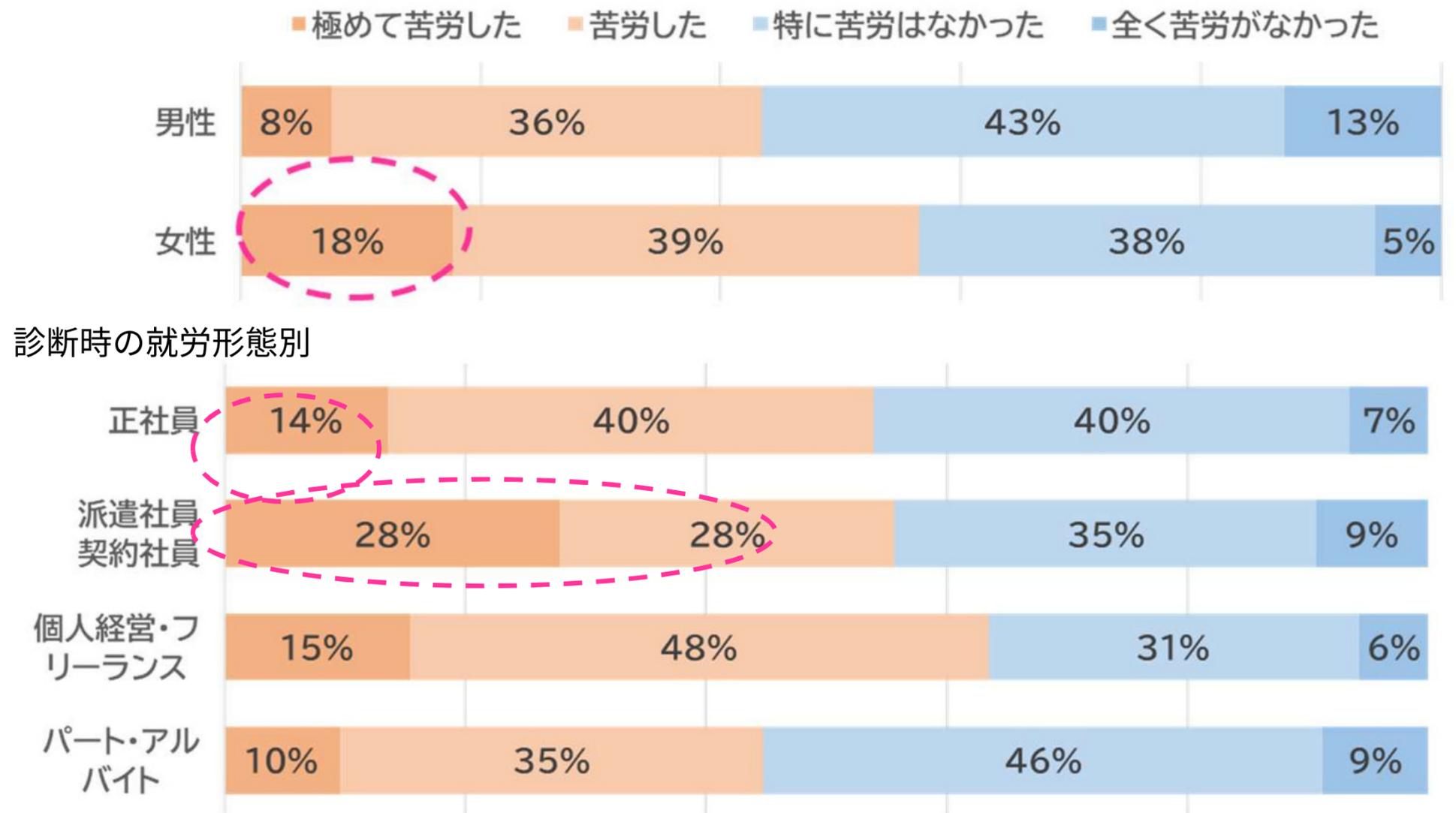
両立の上での苦勞

仕事上の苦勞をした人は全体の5割近く。**きわめて苦勞したと答えたのは女性が多く**
非正規雇用の派遣・契約社員が多い。個人経営は全般的に苦勞されている割合が高い。

仕事との両立にあたり職場環境や仕事上の苦勞はありましたか？

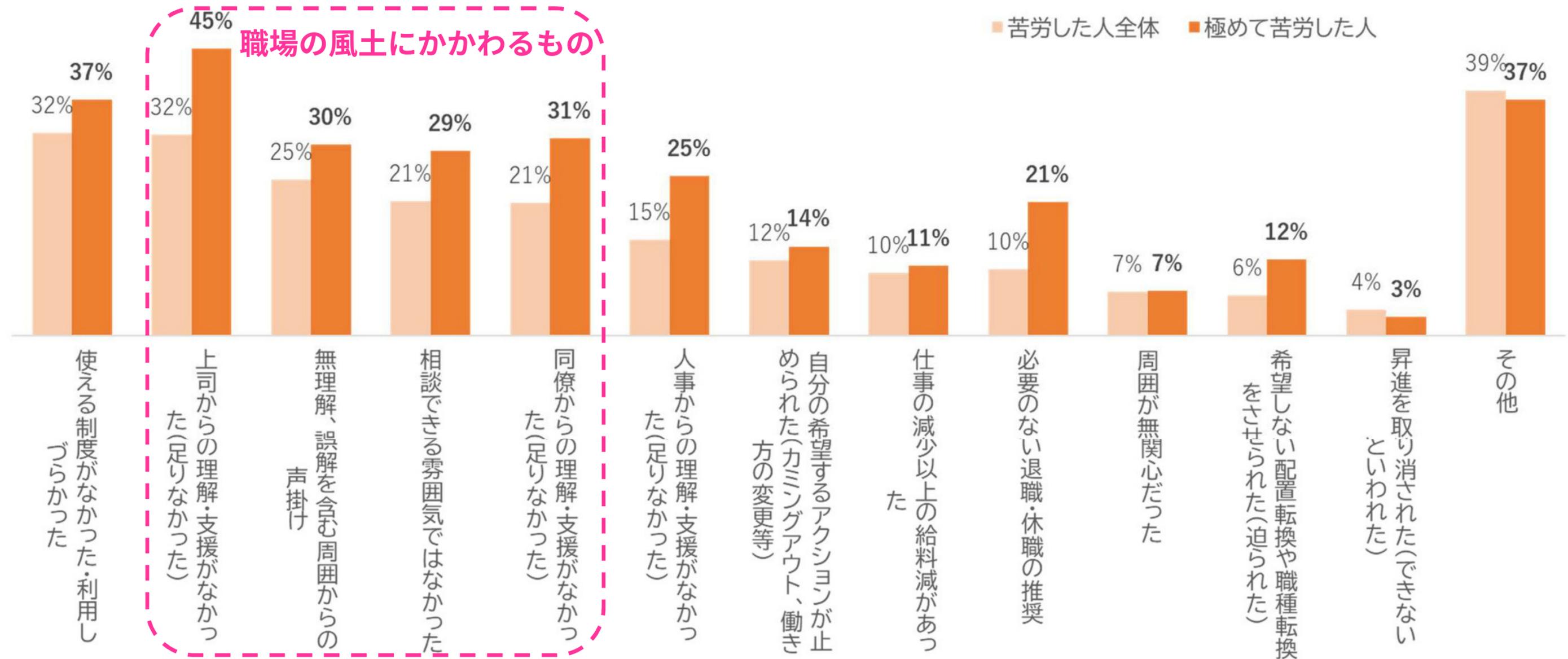


対象:がんと診断されたとき就勞していたと回答した人639人



両立の上での苦勞（苦勞した方のみ）

両立に苦勞した人は、制度が使えなかったり、**上司の理解が得られていない**。退職勧奨も1割と根強い。きわめて**苦勞した方は上司だけでなく、周囲の理解など職場全体から理解されず苦勞**されており職場環境の要素が大きい。



社内制度

- 就労規則見せてもらえない
- 特別休暇はあったが休職制度・前例なかった
- 傷病手当申請を教えてもらえず申請できず
- 休職が月単位で出勤しなくてはならなかった
- フルで働くか休むかの二択だった
- 体調による業務変更配置転換できなかった
- 待つから治療優先と休んだが、席がなかった
- 休憩言い出しづらい、休憩場所なかった

社内風土

- カミングアウト止められた
- 勝手に公表された 其の後の対応困った
- 上司の許可のもとメールしたらクレーム殺到
- 今後、ボーナスや昇進への影響了承するよう言われた
- 治るまで仕事を辞めたほうがいいと上司に
- 過度な心配から仕事を減らされ居づらい
- 限定して伝えているので自分自身との闘い

- 退職勧奨された
- 退院後、次の任用はないといわれた
- 就職活動中、伝えたら言葉を濁された
- 自分自身がどの程度働けるのかわからない
- 復帰後、同じパフォーマンスを求められるが追いつかない
- 迷惑かけてないか、不安と焦燥感
- 自分自身との闘い

テレワーク事例)

① **40代女性** 放射線治療**25日間**

リモートワークできる環境

TECH人材であることもプラスに。

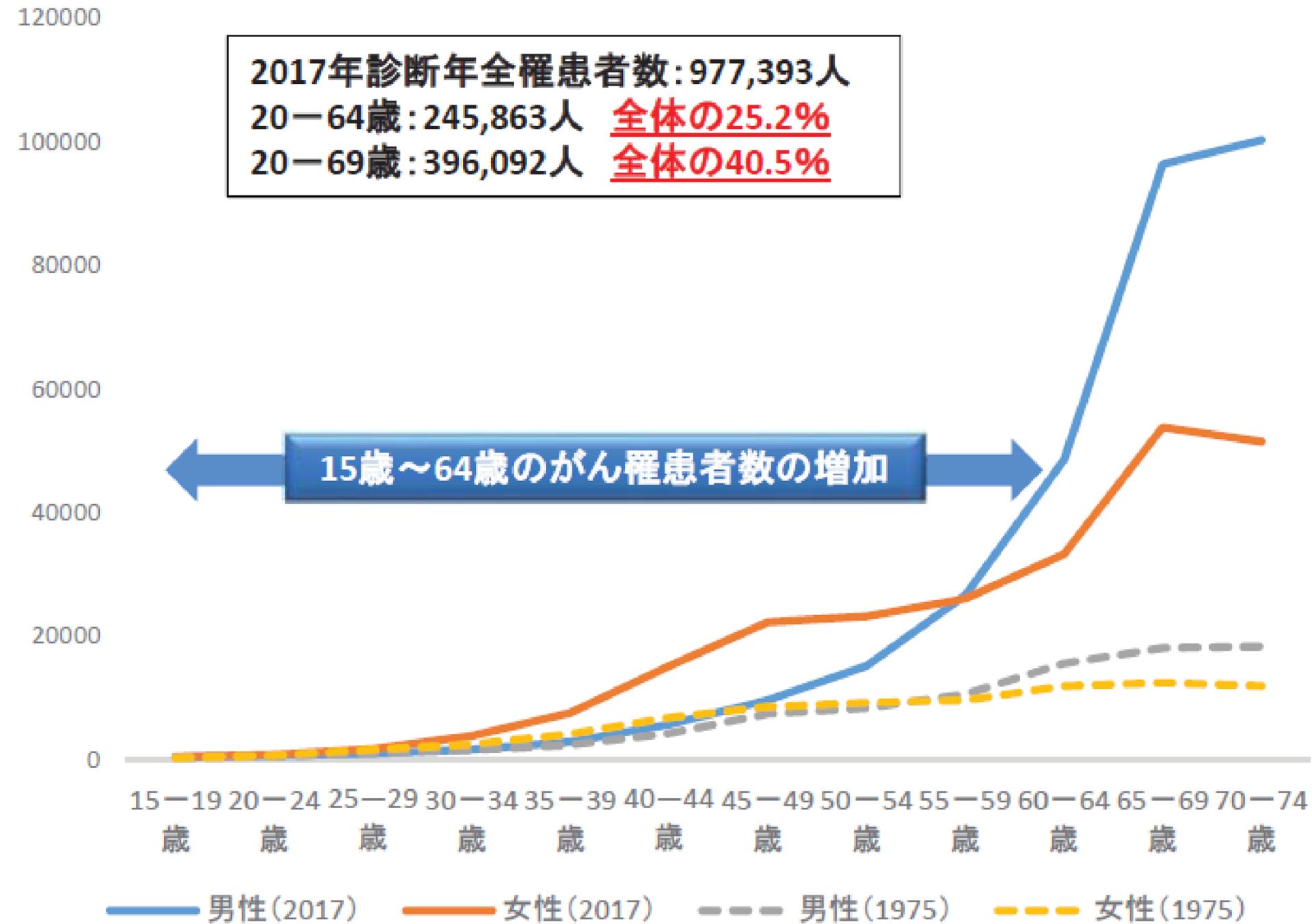
② **50代女性** 抗がん剤分子標的薬治療

基本は出社 治療日は**休む**も

数日間の体調不良時はテレワーク併用可

本人からは**安心感ある**と感想

性別・年齢別がん罹患患者数



注: 1) 2017年は「全国がん登録」に基づくデータ。
2) * 性別不詳があるため男女の合計が総数と一致しない。

出典:「平成29年 全国がん登録罹患数・率報告」(令和2年4月24日発行)
編集・国立がん研究センターがん対策情報センター/発行・厚生労働省健康局がん・疾病対策課

働くがん患者 増えている！

およそ年間90万人ががんと診断
このうちおよそ4割が就労世代
(20歳～64歳)
定年延長などでさらに増える予想

制度だけでなく

対話が大事。



人はひとりじゃ
何もできない

明日は我が身

お互い様



ありがとう
ございました